



【単元を通して育成を目指す資質・能力】 (中学校学習指導要領解説社会編より)

- 中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。(知識及び技能)
- 地域おこしを中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。(知識及び技能)
- 中国・四国地方において地域おこしの成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。(思考力・判断力・表現力等)
- 日本に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情についての自覚などを深める。(学びに向かう力、人間性等)

★単元の概要

日高村の産業であるシュガートマトに焦点を当て、なぜトマトによる地域おこしが成立しているのかを考察していく中で、中国・四国地方の地域的特色や地域の課題を理解させる。さらに、地域おこしの成立条件だけでなく、人口減少という課題についても考察させることで、「(4) 地域の在り方」の単元につなげていく。単元を貫く課題を『トマトによる地域おこしの秘密を探ろう』とし、日高村でシュガートマトによる地域おこしが成立している理由を、位置や自然環境との関連などの地理的条件、地域の人々の対応に着目し多面的・多角的に考察し、表現させる。

期待する生徒のゴールの姿

- トマトによる地域おこしが成立している理由には、温暖な気候や、交通網の発展による他県とのつながり、地域の人々の思いや取組によって6次産業化されたことなどがあげられる。しかし、自然が豊かなことで産業に限られ、交通網の発展もあって他地域へ人口が流出し、人口減少につながっている面もあると思った。
- ゲストティーチャーからの話のなかで、日高村に住む人口を増やすだけでなく、村に関係する人を増やしていくという新しい視点から、地域おこしについて考えることができた。

見方・考え方を働かせて…

地域おこしには、どんな人たちがどのように関わっているのかな。

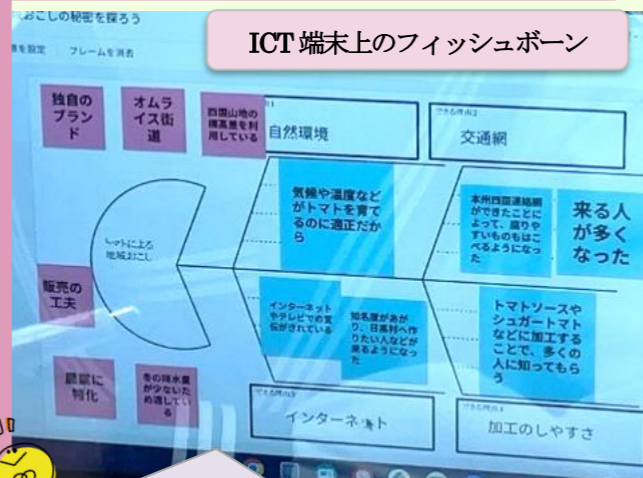
持続可能な地域おこしにしていこうために、解決すべき課題は何だろう。

本時の課題の流れ (7時間目/全7時間)

本時の課題 日高村でトマトによる地域おこしが出来るのはなぜだろう。

- 導入:** 単元を貫く課題を確認する。前時にまとめたノートから、ゲストティーチャーの話振り返り、トマトによる地域おこしの日高村への影響を確認する。
- 展開:** トマトによる地域おこしが成立する理由を考える。思考ツール「フィッシュボーン」を活用して、地域おこしが成立する条件を整理し、まとめる。単元の中で集めた、根拠となる資料を示して、全体発表を行う。(ワールドカフェ方式) 自分の考えになかった意見をフィッシュボーンに加え、再度、成立条件について考える。
- 終末:** トマトによる地域おこしが成立している理由をまとめる。

ポイント① 多面的・多角的な思考を促す工夫!



- ▶ICT 端末上の思考ツール(フィッシュボーン)を活用し、課題に対し視点を定めて自分の考えを記入。
- ▶その後、自由に席を移動して、他のグループの説明を聞きに行く。
- ▶さらに、自分のグループに戻り、自分や自分のグループになかった考えを、違う色の付箋でフィッシュボーンに付け加え、多面的・多角的な考察を深めていく。

ポイント② ゲストティーチャーの活用!

○資質・能力の育成、多面的・多角的な思考を促す

JA 職員 (トマト農家)

シュガートマトは1983年に誕生し、大玉トマトを品種改良して甘みを増すようにしたんだ。半分は関東に出荷していて、農家の中には県外からの移住者もいるよ。

日高村独自のブランドやオムライス街道などの積極的なアピールや地産地消の推進とともに、農業に関わる人材の確保が大切と考えています。

村役場 日高村役場職員

- 【愛媛大学教育学部 井上昌善 准教授より】
- ★外部人材の活用視点
- ① 垂直的(一方向的・単一的)な関係
外部人材は知識の提供や学習成果の評価を行い、子どもにとっては教師同様の存在である。
 - ② 水平的(双方向的・互恵的)な関係=協働的關係
外部人材は子どもと協働的な議論を通じた課題解決の方法を検討していく。教師による、協働的議論を可能にする環境の創出が必要となる。
- ⇒本単元では①のケース。子どもの社会認識(地理認識)を形成するために、教材研究してもわからない(わかりにくい)ことを、当事者に聞いたり話したりしてもらう。

ポイント③ 単元の順序を工夫!

【一般的な取扱い】 【日高中のモデル】

C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域
九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方

C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域
九州地方、中国・四国地方

(4) 地域の在り方

(4) 地域の在り方

(3) 日本の諸地域
近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方

- 【単元構想の意図】
- ▶中国・四国地方の特色や地域的課題、そして日高村の地域おこしの課題について学習した後に、その課題解決に向けて子どもたちにすぐに構想させたい。
 - ▶その課題解決策について、ゲストティーチャーから実現可能性や妥当性などのフィードバックをもらうことで、より地域的課題について深く考えられるのではなかろうか。
- 扱う地域の順序は、それぞれの地域、学校の状況の中でしっかりと工夫することが大切。
 - どの地域を、どの視点でどのように取り上げていくか、学習指導要領に示された①～⑤までの「考察の仕方」と、どのように組み合わせる単元設計を行うのか、そのためには、目の前の生徒にとって、どのような順序が良いのかを工夫することが求められる。

【授業後の生徒インタビューでは】 (一部抜粋)

- ★シュガートマトが生産できるのは、日高村独自の自然環境をうまく生かしているだけではなく、役場の人の力や、県外から移住して農業をしている人の力もあることが分かり、協力が必要であると思いました。⇒ 多面的・多角的に思考している
- ★人口が減っているから、これからは高齢者の方も参加できる仕組みを作りたいかなと思いました。⇒ 地域の課題の理解と解決策

【今後の取組と授業改善のポイント】

- ★「地域おこし」を中核として考察をする中で働かせた見方・考え方を、「他の地域でも同様の課題が見られるのか」、「どのような点が異なっているのか」という課題を解決していく中で働かすことができるようにしていくことが重要。